

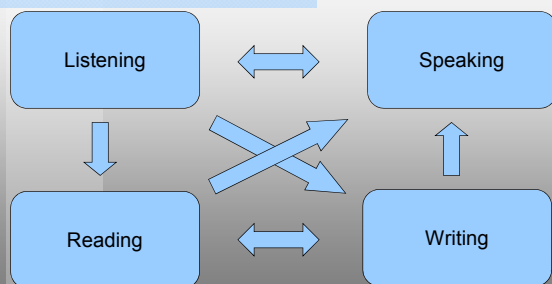
技能統合型英語授業の実践： ライティングからオーラル・プレゼンテーションへ

山梨県立大学
杉田 由仁

はじめに

- 現行『学習指導要領』の注目点
「4技能の総合的な指導を通して、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する」
→ 必要情報を「聞く(listening)」
忘れないようにメモを「書く(writing)」
メモを「読み(reading)」内容を
「話す(speaking)」

4技能の統合 (岡, 2004)



4技能統合活動の意義

- 岡 (2004, p.142)
 - 1) より自然で実践的コミュニケーションに近い
 - 2) 内容中心の言語活動になる
 - 3) 英語力の定着、発展に役立つ
- 新里 (2008, p11)
4技能を連携させて活用することにより、定着のスピードと深さが増し、総合的な英語力がつく

大学において求められる総合的な指導内容

- 『英語が使える日本人』の育成のための行動計画 (2003) : 大学を卒業したら仕事で英語が使える
- 企業が求める英語力調査 (小池ら 2008) : 国際的な交渉力を備えた英語によるプレゼンテーション能力

大学生対象のプレゼンテーション指導効果

- 「題材に対する学習→原稿作成→発表」というプロセスにおいて4技能が総合的に活用され、様々なスキルの習得につながる (佐藤 2006; 藤田・山形・竹中 2009 他)。
- スピーチの英語学習に対する効果因子の1つとして「作文・語彙因子」を抽出 (三熊 1995)。

4技能を統合した指導における ライティング

- 統合的ライティング(Integrated writing)の定義
「4技能の総合的な言語使用を目的として行われる授業において、日常的な場面・内容に関わる情報や自分の考えなどをまとめ、発表するために行われるライティング活動」

Writing for Presentations の授業実践

- 科目の目的
身近なトピックについてパラグラフ・ライティングを行い、その内容を英語でプレゼンテーションするための基礎的技能を実践的に習得する

Writing for Presentations の授業実践

- 授業内容
第1回～6回: 知識を提供するプレゼンテーション
第7回～8回: 中間発表会
第9回～14回: 説得的プレゼンテーション
第15回～定期試験時: 期末発表会

Writing for Presentations の授業実践

- 授業実践の対象者
2012年度後期に「総合英語 I b」を受講したY県立大学看護学部1年生48名
入学時に実施したプレイスメントテスト(TOEIC Bridge)の得点レンジ: 126～138
全受講者48名の内、31名(64.58%)は「話すこと」のスキルアップを希望している

Writing for Presentations の授業展開

- テキスト(Writing for Presentations in English 南雲堂 2012)の構成にしたがって
[Word Study] → [Pre-task Activity]
[Writing Activity] → [Preparing for Presentations] → [Oral Presentation] → [Peer Feedback]

授業実践の効果について

- 英語プレゼンテーションに関するアンケート
 - 1) Mikuma (1995) “About speech effects on EFL” を参考に、15問構成の質問紙を作成
 - 2) 「中間発表会」および「期末発表会」終了後に実施
 - 3) 各回の5段階評定の平均値を質問項目ごとに対応のあるt検定にかける
 - 4) 「プレゼンテーションの満足度(Q.15)」を目的変数他の項目を説明変数として重回帰分析を行う

アンケートの結果 (1)

- Q.6 英語のスピーキングの力が伸びてきたと感じる (5%水準)
- Q.7 人前で発表することがそれほど不安でなくなってきた (1%水準)
- Q.8 人前で発表することがそれほど億劫でなくなってきた (1%水準)
- Q.9 人前で発表することに対してやる気や意欲が出てきた (5%水準)
- Q.15 プレゼンテーションを行ってみて良かったと感じる (1%水準)

アンケートの結果 (2)

【中間発表会后】

プレゼンテーションを経験したことからくる満足度(Q.15)と深く結びついているのはQ.6「英語のスピーキングの力が伸びてきたと感じる(5%水準)」1項目のみ

アンケートの結果 (3)

【期末発表会后】「満足度」と有意に関連する項目

- Q.1 原稿作成時に使う単語や語句の種類が増えた(1%水準)
- Q.4 発表する時に使う単語や語句の種類が増えた(5%水準)
- Q.10 原稿の発音・音読練習を行うことは効果的である(1%水準)
- Q.12 原稿を暗記した後にリハーサルを行うことは効果的である(5%水準)
- Q.13 発表に向けて原稿を書くことは効果的である(1%水準)

プレゼンテーションの評価

	中間発表会	期末発表会
評定平均	15.292	16.875
標準偏差	3.281	2.160

t検定の結果、中間発表会と期末発表会におけるプレゼンテーションの評定平均値の差は有意であった(両側検定: $t(47) = 4.1931, p < .001$)。したがって、受講者は期末発表会におけるほうが優れた成績をあげたと言える。

プレゼンテーション原稿の評価

	中間発表会	期末発表会
評定平均	12.125	13.875
標準偏差	1.852	1.468

t検定の結果、中間発表会と期末発表会におけるプレゼンテーション原稿の評定平均値の差は有意であった(両側検定: $t(47) = 5.6953, p < .001$)。したがって、期末発表会におけるプレゼンテーション原稿のほうが優れた成績をあげたと言える。

結果のまとめ

テキストの題材に関する情報や自分の考えなどをまとめ、発表するために行われる統合的ライティング活動に取り組むことにより、プレゼンテーションによる英語のスピーキング能力そのものの向上に留まらず、発表のための語彙力増強やライティングの技能をプレゼンテーションと統合的に活用することのできるコミュニケーション能力の育成が図られる。